

クロイズアップ・サンガ

100万部の聖典にかけられた思い

—「現代語版聖典」編纂の現場から—



佐々木義英

(ささき ぎえい)

30年間に15種の聖典を刊行

本願寺教学伝道研究所の聖典編纂部門では、一九八二年に策定された第二期宗門発展計画を起点に、宗門の根幹となる各種聖典の編纂事業がスタートしました。現在までに刊行

されたものは、一九八五年発行の「原典版聖典」シリーズ（二種類）を皮切りに、「註釈版聖典」シリーズ（二種類）、「現代語版聖典」シリーズ（十種類）、そして「季刊せいとん」と、続々と発行されています。その内容は、

「原典版聖典」シリーズ

・「原典版聖典」 1985年発行

・「原典版聖典（七祖篇）」

1992年発行

「註釈版聖典」シリーズ

・「註釈版聖典」 1988年発行

・「註釈版聖典（七祖篇）」

1996年発行

・「註釈版聖典（第二版）」

2004年発行

「現代語版聖典」シリーズ

・「浄土三部経」 1996年発行

・「歎異抄」 1998年発行

・「蓮如上人御一代記聞書」

1999年発行

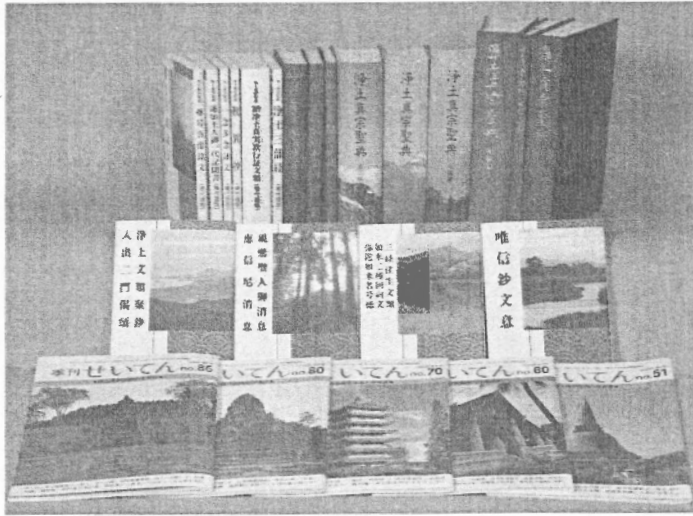
・「顕浄土真実教行証文類」

2000年発行

・「一念多念証文」 2001年発行

・「唯信鈔文意」 2003年発行

・「尊号真像銘文」 2004年発行



・『三経往生文類 如来二種回向文 弥陀如来名号徳』

2005年発行

・『親鸞聖人御消息 恵信尼消息』

2007年発行

・『浄土文類聚鈔 入出二門偈頌』

2009年発行

「季刊せいてん」創刊号〜第86号

年4回季刊発行

と多岐にわたっています。第二期宗門発展計画が立ち上がって以来、約三十年の間に、十五種類の聖典が、実に、二年に一冊という驚異的なスピードで発行されています。このうち、「現代語版聖典」シリーズをみると、宗門の根本聖典である「浄土三部経」をはじめとして、親鸞聖人の著作を中心に発行されています。これらは「原典版聖典」シリーズに基づいて作られた「註釈版聖典」シ

リーズを元にして作られています。

「原典版聖典」シリーズは、文字通り「浄土真宗」の原典となるものですから、漢文や古文で書かれたものがそのまま掲載されている、学術的に非常に高度な聖典です。また「註釈版聖典」シリーズは、さまざまな学習会などで広く活用されることを目的に、読み仮名を付けたり、難しい用語に説明を施して、原文の意味を汲み取りやすいように作られています。そして、これらの成果を踏まえて、より一層の普及をはかるために発行されているものが「現代語版聖典」シリーズです。

そうしますと、まだ「現代語版聖典」シリーズに加わっていないものの中には、七高僧のお書きになったものや歴代の宗主のお書きになったものなど、数多く残っていますので、これからも、日本国内はもちろん世界に向けて、その教えを普及す

るために、編纂し発行し続けていかなければなりません。

本願他力の教えを伝えるために

それでは、なぜこれほどまでに精力的に聖典を発行するのかということですが、その根拠は、第一にも第二にも、宗祖親鸞聖人の教えを体して、本願他力の教えを一人でも多くの人々に伝えるためであり、それはそのまま宗門が存立するための根拠であるからなのです。門信徒のみならず、さまざまご存知であると思いますが、二〇〇八年四月一日に、浄土真宗本願寺派の基本ともいべき「浄土真宗本願寺派宗制」が新しくなりました。このなか、聖教しやうきやうについての解説に、次のような文言が掲載されています。

聖教とは、本宗門の教義と信仰の

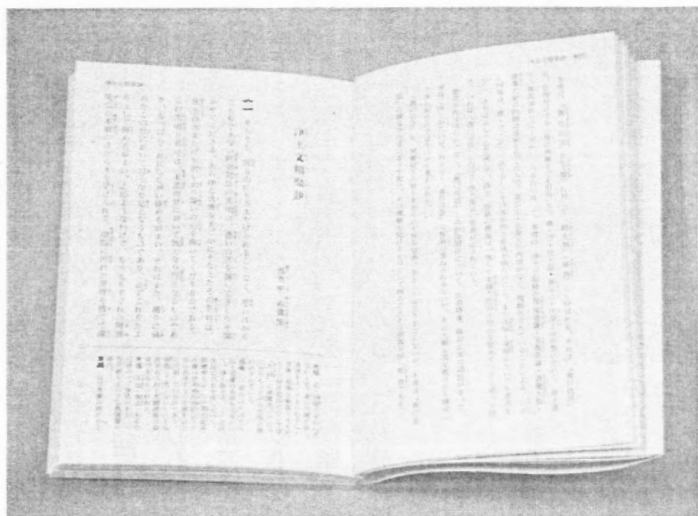
依りどころとすべきものであり、基本的には宗祖がその教義を信仰の正しき依りどころとされた浄土三部経、七高僧の撰述、ならびに宗祖自身の撰述をさすものである。しかしながらこれら以外にも、蓮如上人の『御文章』をはじめとして、宗祖の教えを傳承し、信因しんいん称報しやうほうを示すなど本願他力の教えの意義を明らかにされた典籍がある。

この解説のなかに記されている聖教を普及するためには、私たち聖典編纂部門の果たさなければならぬ役割は非常に大きく、重責を担たう仕事であるといえます。各種聖典シリーズの編纂姿勢は、いずれも「本願他力の教えを一人でも多くの人々に伝える」ということで一致していますが、特に「現代語版聖典」シリーズは、いわゆる古典の聖教を現代語

に訳すということが主な内容になりますので、聖教が書かれた時代と今のこの時代とを結びつけるという大きな壁を乗り越えなければなりません。

これは、計画当初からいわれていることですが、翻訳しようとする者が、私見おみに陥ることなく、原文の意味を忠実に理解して、それを現代語として表現できなければ、まったく意味のないものとなってしまいます。まして私たちが扱っているのは、まさしく聖教ですから、問題は深刻です。

原文の意味を忠実に理解するということとは、文章の意味を一つひとつ丁寧に汲み取ることですが、文字面もじづらに捕らわれて、仏さまや親鸞聖人が何を伝えたいのかを的確に把握することができなければ、文意を見失ってしまうこととなります。また、現代語として表現するということは、



今の私たちの語感にしたがって言葉を充てるといふことですが、原文に使われている語句の意味を損なわないうようにして言葉を選ばなければ、仏さまや親鸞聖人の意図している思いを伝えることはできません。

いずれにしましても、極端な逐語

訳や意識は聖教の真意を歪めてしまします。聖教を現代語に訳すということは、本当に勇気のいる作業です。現代語による表現と古典の表現とは、はざままで、一行を訳すために、何時間も何日も費やすことは珍しいことではありません。

100万の門信徒の思いを胸に

こうした壁にぶちあたった時、私たちに勇気とエネルギーを与えてくれるものが、聖典を手にとってくださっているたくさんの方々の姿です。それは、各種聖典の発行部数に如実に表れています。現在までの発行部数をまとめてみました。

「原典版聖典」シリーズ
27、500部

・『原典版聖典』（16、500部）

・『原典版聖典（七祖篇）』（11、000部）

「註釈版聖典」シリーズ

167、400部

・『註釈版聖典（初版）』

（116、700部）

・『註釈版聖典（七祖篇）』

（31、000部）

・『註釈版聖典（第二版）』

（19、700部）

「現代語版聖典」シリーズ

234、000部

・『浄土三部経』（77、000部）

・『歎異抄』（68、000部）

・『蓮如上人御一代記聞書』

（21、500部）

・『顕浄土真実教行証書類』

（32、000部）

・『一念多念証文』（15、500部）

・『唯信鈔文意』 (6、000部)

・『尊号真像銘文』 (3、000部)

・『三経往生文類 如来二種回向文
弥陀如来名号徳』 (2、500部)

・『親鸞聖人御消息 惠信尼消息』

(6、000部)

・『浄土文類聚鈔 入出二門偈頌』

(2、500部)

「季刊せいてん」

795、000部

各種「聖典シリーズ」の合計は四十三万部、これに「季刊せいてん」を加えると、実に百二十二万部を超えていました。こうした現実を目の当たりにした時、私たちは、ご自宅で聖典を見ておられる方々の思いを感じずにはおれませんでした。時代がどれだけ移り変わっても、聖典に説き示されている教えにふれようと、それを求めておられる方々が

らっしゃるといふ事実は、私たちに、聖教に説かれている阿弥陀仏の教えを間違いなくお伝えしなければならぬという思いを確固たるものになりました。

聖教に説かれている教えは、今のこの私たちのために説かれている教えです。そうでなければ、私たちに何の関係もない、まったく無意味なものとなってしまいます。「現代語版聖典」シリーズの元になっている古文や漢文の聖教は、それぞれの時代の中で、実際に使われ伝えられていたものばかりですから、その時代に生きる方々の生活と無関係に説かれたものは何一つとしてありません。ですから、その時代を生き延びた方々にとっても、現代に生きる私たちにとつても、心に響く言葉であるといえます。

親鸞聖人をはじめとする高僧方が、私たちのために書き残してくだ

さった言葉の一つひとつに、阿弥陀仏の本願を伝えなければならぬという篤い^{あつ}思いが込められています。そして、そのお心にふれようと聖教を求めておられる百万の門信徒の方々の思いを胸に、私たちは、聖教に用いられている言葉の真意を汲み取り、今に伝えることのできる聖典の編纂をめざしていきたいと思えます。

(教学伝道研究センター常任研究員)